

□ 次問いに答えなさい。

(1) 次の――線にあてはまる漢字と同じ漢字が含まれているものを、下のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

・本の内容をヨウヤクして話す。

ア 地球はタイヨウの周りを回っている。
イ エイヨウを考えて食事を作る。
ウ この問題の解決はヨウイではない。
エ 相手のヨウキョウを受け入れる。

(2) 「戸」と同じ成り立ちの漢字を、次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 後 イ 皿 ウ 詩 エ 弱

(3) 「福」の部首の持つ意味を、次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 武器 イ 直線 ウ 神事 エ 衣服

(4) 「料」を楷書で書いた時、次の色のこの部分は何画目になりますか。あとのア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

料

ア 七画目 イ 八画目 ウ 九画目 エ 十画目

(5) 「牛乳」と同じ構成の熟語を、次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 少量 イ 困苦 ウ 閉館 エ 寒暖

(6) 漢字が正しく使われている四字熟語を、次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 大道小異 イ 日進月歩 ウ 馬事東風 エ 事実夢根

(7) 次の文の□にからだの一部を表す漢字一字を書きなさい。

・一進一退の試合展開で、□に汗をにぎる。

(8) 次の俳句に用いられている表現技法を、あとのア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

蜻蛉に空のさざなみあるごとし (佐々木有風)

※ 蜻蛉 とんぼ。
ア 直喩 イ 擬人法 ウ 対句法 エ 擬声語

(9) 次の文の――線の語が直接かかることを、文中のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

・ぼくはそつと――周りの人の顔を――見た。

(10) ―線の敬語であやまった使い方をしているものを、次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 貴重品はお持ちにならないでください。
イ 私の妹もそうおっしゃっていました。
ウ 応接間にお客様がいらつしやっています。
エ 先生は今昼食をめし上がっています。

□ 次 of 文章 を読んで、あとの問いに答えなさい。

(これまでのあらすじ) 東京に住む五歳のなっちゃんは、ときどきパパと新幹線で、出産のために実家近くの名古屋の病院に入院しているママに会いに行っている。帰りの新幹線になっちゃんはいつも、ママと別れるさびしさや、おなかにいる双子への不満から、黙り込んでしまふのであった。ある日の訪問のあと、ママはパパに、二人の帰りの新幹線を予約したことを伝えた。

「悪いけど、これ、『ごだま』だよなあ……」

「そうよ」とママはすまし顔でうなずく。

「時間がかつちゃうからなあ、『のぞみ』と違つて」

「早く帰りたい？」

「うん……まあ……」

おばあちゃんが待つている。名古屋から帰ってくる日の晩ごはんは、いつもなっちゃんの好物ばかり並ぶ。それになにより、新幹線の中でじつと押し黙るなっちゃんの背中を思い浮かべると、せつなくてたまらなくなる。新幹線に乗る時間が一時間長くなれば、そのぶんなっちゃんの沈黙も長くなってしまうのだから。

でも、ママは意外なほど「 」とした声で、「せつかく電話して予約したんだから、これに乗って帰つてよ」と言った。「いいじゃない、たまにはのんびり帰るのも」

「うん……」

「いい？ キャンセルなんてしちゃダメだからね」

最後に念を押して、ママは「そういうことで、ちよつと早いけどメリー・クリスマス」と――まるで、「あとは仕掛けをご覧じろ」と含み笑いをする魔法使いのように、うふふつ、と笑つた。

列車が三河安城駅のホームに滑り込む。

パパは、でもなあ、やつぱりなあ、と携帯電話を取り出した。② もしもなっちゃんが「早く帰りたい」と言うのならせめて途中で『ひかり』に乗り換えよう、と携帯電話で時刻表を調べかけた、そのとき――

「ねえ、パパ……サンタさん」

なっちゃんが言つた。

「はあ？」

「トナカイさんも、ホームにいるよ」

驚いて顔を上げると、ほんとうだ、停車する③ 寸前の窓の外、ちよつと二人の乗っている車両の前に、サンタクロスと着ぐるみのトナカイが立つていた。

「なんでこんなところにいるの？」

「さあ……」

「パパ、のつてくるよ。なかにはいつてくるよ」

なっちゃんは外を見ていた目を、客室のドアのほうに向けた。自動ドアが開く。トナカイがリボンをつけた④ 箱を抱いて入ってきた。サンタも入ってきた。車内はがら空きに近かつたが、数少ない乗客から声にならないざわめきがあがつた。

サンタもトナカイも、なんとなく照れくさそうだった。

もちろん、どちらもホンモノではない。サンタは若い男のひと、トナカイは若い女のひと――売れない⑤ 劇団のアルバイトといった様子だ。チケットを手にしたサンタが、あ、ここだここだ、となっちゃんたちのすぐ前の席に座つた。トナカイも、ちらりと二人を見てから、サンタの隣に座る。

列車が走りだしても、なっちゃんは窓の外には目をやらなかった。ぽかんとした顔で、シートの上にはみ出しているトナカイのツノとサンタの赤い帽子を見つめ、パパと目が合うと、すごいねすごいね、と小声で言う。

トナカイが不意に立ち上がつて、なっちゃんとパパを振り向いた。

「すみません、席、向かい合わせにしてもいいですか？」

つづけてサンタも立ち上がって「なっちゃん、だよね？」となっちゃんに声をかけた。

③ 呆然とする二人をよそに、サンタとトナカイは、よいしょ、よいしょ、とシートを回転させて、向かい合わせに座り直した。サンタはにこにこしている。トナカイもにこにこしている。その笑顔につられたように、なっちゃんも笑った。

「メリー、クリスマス！」

トナカイが言った。

「メリー、クリスマス、なっちゃん！」

サンタはそう言って、トナカイから受け取った箱をなっちゃんに手渡した。

なっちゃんが箱から取り出したプレゼントは、白と黒でベアになったフタさんのぬいぐるみだった。

それを見たとき――④ すべてが、わかった。

ベッドでVサインをつくって笑うママの顔が、ふわっと浮かんで、ゆらゆらと揺れそうになった。

サンタとトナカイは、次の豊橋駅で下車した。サンタさんに抱っこされたりトナカイさんのツノをついたり、はしゃぎどおしだったなっちゃんは、「もうおりちゃうの？」と寂しそうな顔になった。ぐずってしまうかとパパは一瞬ひやっとしたが、それは⑤ 無用の心配だった。「ごめんね」と謝りながら席を立った二人に「ありがとう！ バイバイ！」と笑って手を振ったなっちゃんは、⑥ またひとつ「おねえちゃん」になつてくれたようだ。「ちよっと、パパ、送ってくるよ」とパパは二人を追いかけて、デッキで礼を言った。

やはり二人は地元の演劇サークルのメンバーだった。

「こういう仕事は初めてだったんですけど」とトナカイが苦笑。交じりに言うと、⑦ サンタが「でも、いい仕事でした」と白い付けヒゲを撫でながら笑った。

(重松清『サンタ・エクスプレス』)

※1・2・4 こだま・のぞみ・ひかりⅡ新幹線の種類。のぞみ、ひかり、こだまの順に停車駅が少なく、速い。

※3 三河安城駅Ⅱ東京方面に向かう新幹線こだままで、名古屋の次の停車駅。

(1) ①――②――③――④――⑤――⑥――⑦の漢字の読みがなをひらがなで書きなさい。

(2) ① 悪いけど、これ、『こだま』だよなあ…… とありますが、こう言ったパパの思いを説明した次の文の□にあてはまることばを、「沈黙」ということばを使って、三十字以上四十字以内で書きなさい。ただし、「……」から、「……たい」という形で書くこと。(句読点を含む。)

せつかくママが予約をしてくれたけれど、東京の家でおばあちゃんがなっちゃんの好物を作って待っているし、□と思っています。

(3) 文章中の□にあてはまることばとして、もっとも適切と思われるものを、次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア きつぱり イ おどおど ウ しょんぼり エ うんざり

(4) ② もしもなっちゃんが「早く帰りたい」と言うのなら途中で『ひかり』に乗り換えよう とありますが、このようにパパが考えるのは、どのような理由があると考えられますか。次の文の□にあてはまることばとして、もっとも適切と思われるものを文章から十二字でさがして書きぬきなさい。

帰りの新幹線でのなっちゃんの様子を見ると、自分も□から。

(5) ③ 呆然とする とありますが、呆然としている表情を表したことばを、文章中から七字でさがして書きぬきなさい。

(6) ^④すべてが、わかったとありますが、どのようなことが「わかった」のですか。次の文の□にあてはまることばを、「クリスマスプレゼント」ということばを使って、二十字以内で書きなさい。(句読点を含む。)

新幹線に乗り込んできたトナカイとサンタがなっちゃんにプレゼントを渡すという一連の出来事は、□ということ。

(7) ^⑤またひとつ「おねえちゃん」になってくれたようだ とありますが、この表現から読み取れるパパの気持ちとしてもっとも適切と思われるものを、次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア なっちゃんにがまんをさせてばかりで申し訳ないと思う気持ち。

イ なっちゃんが成長していることを知ってうれしく思う気持ち。

ウ なっちゃんの弟や妹が生まれてくるのを楽しみに思う気持ち。

エ なっちゃんにはもっと姉としての自覚を持ってほしいと思う気持ち。

(8) ^⑥サンタが「でも、いい仕事でした」と白い付けヒゲを撫でながら笑った とありますが、このときのサンタの気持ちの説明として、もっとも適切と思われるものを、次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア なっちゃんがプレゼントを気に入ってくれたことにほっとし、今後もサンタとして仕事を続けようと思っている。

イ 新幹線で大勢のお客さんに注目されたことがうれしくて、もっといろんな仕事に挑戦したいと思っている。

ウ なっちゃんの笑顔を見て自分たちも幸せな気持ちになり、この仕事を引き受けてよかったと思っている。

エ 時間や場所の条件のある難しい仕事だったが、やりとげたことで自信がつき、役者として成長したと思っている。

三

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。(1)～(11)は段落の番号を示しています。)

① 茶の湯の目的は何だろうか。茶の湯は何のためにあるのだろうか。

② ^{いちごいちま}一期一会、心のもてなし、^{かんぎ}環境、^{ゲイジユツ}ゲイジユツ、^{パフォーマンス}パフォーマンス、などいろいろな目的が計上されているが、そういう目的項目だけではどうしても埋め合わせのつかないところがあるようだ。

③ しかしそんなことはともかくとして、毎日お茶を入れていると、ある形というものが出来てくる。たんなる食後のお茶であっても、積み重ねというのは恐ろしいもので、人間は日々ものごとをAしようと努力している。お湯を沸かし、茶碗を揃え、お茶の葉を用意し、湯をそそぎ、という順序が次第に自分なりに整えられてくるのだ。

④ ふだんの食後のお茶というのは、どうにでも入れようがあるもので、私をはじめ「茶頭」になったころは、細竹でアんだ茶こしを使っていた。寿司屋でもよくこれを使っている。入れているのは粉茶のようで、たっぷりした筒茶碗の上まで満たされて出てくる。あの^①寿司屋のお茶というのがじつにおいしい。寿司屋という少々高級な場所で、それでいてカウンターという^②リンジ的な席に坐りながら、そこで大型茶碗にたっぷり目に出てくる。つまり精密さと大雑把さとのかみ合いが、あの寿司屋のお茶というものをおいしくしているのだろうと思う。

⑤ そんなわけで、家でも茶こしを使ってお茶を入れていたが、最近ではいつの間にか急須で入れるようになった。草庵のお茶からまた書院台子のお茶に、というわけでもないのだろうが、どんな入れ方であれ毎日繰り返すうちには、お茶の入れ方にある筋道ができて、リズムが生れてくる。そのおこない自体が、目的を離れて、少し浮き上がってくるのを感じる。ただのお茶を入れるというおこないに「道」が出来上がっていくのが、何となく自分でもわかるのである。

⑥ ^②お茶を入れる、その入れ方が次第に儀式化していくというのは、生きていることの不安によるものではないか。

⑦ という少し大げさになるのだけど、毎日お茶を入れる、その入れ方にもっとも良い順序というのが決まってきた、それがスムーズにとりおこなわれていくことによって、安心をするということがあるのである。心の安らぎを得る、と言い変えてもいい。

⑧ 人間はいつも何らかの不安を抱えて生きている。ふだんは生活のための仕事があるから、生きていることの不安には面と向かわずに

済んでいる。[B]その不安と向きあうのを避けるために、生活のための仕事に没頭しているのかもしれない。

⑨ 不安にもいろいろあって、経済の不安、人間関係の不安、住まいがなくなる不安、空気がなくなる不安、高いところから落ちそうな不安、黴菌にはいり込まれる不安、等々、それらは③おしなべて生きていることの不安であって、つまりは死ぬことへの不安である。要するに死が不安であるからそこに向かう生が不安であり、みずからの④ソンザイ自体が不安なのである。

⑩ そんな不安に、人間はじつとしていると吸い込まれかねない。そのために生活の貧しさがああり、人々は貧しさと闘うことで、生きている不安を避けて通ることが出来る。しかし貧しさと闘ううちには貧しさに勝ってしまうもので、勝って裕福になったことによつていよいよ不安があらわれてくる。その不安と正対することを避けようとして、右に左によそ見をする。上を見て下を見る。花を生け、木を彫ったりする。文字を書き、文字を読む。剣を磨き、弓を⑤イ。そうやって趣味と称し、勉強と称し、酔狂と称して、生きている不安からの遠ざかり運動に励むのである。

⑪ ④そんな運動の小さな波が、お茶を入れる時間にあらわれてくるのだ。

(赤瀬川原平『千利休 無言の前衛』一部表記を変えたところがある。)

※1 茶頭Ⅱ茶の湯をつかさどるかしら。

※2 草庵のお茶からまた書院台子のお茶にⅡ安土桃山時代に茶の湯を大成した千利休は、広い書院で名物の茶器を用いて大勢で行う「書院台子の茶」ではなく、せまい独立した座敷(草庵)で少数で行う簡素な「草庵の茶」こそ心に至るものであると主張した。

※3 正対Ⅱ正面から向き合うこと。

(1) ③——⑤——のカタカナを漢字で書きなさい。

(2) 文章中の[A]にあてはまることばとして、もつとも適切と思われるものを、次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 複雑化 イ 相対化 ウ 自動化 エ 合理化

(3) ①寿司屋のお茶というのがじつにおいしい とありますが、筆者はその理由を、どのようなことばでまとめて表現していますか。文中から十四字でさがして書きぬきなさい。

(4) ②お茶を入れる、その入れ方が次第に儀式化していく とはどういうことですか。次の文のⅠとⅡにあてはまることばとして、もつとも適切と思われるものを、文章からⅠは三字、Ⅱは二字でさがして書きぬきなさい。

毎日お茶を入れることを繰り返しているうちに、動作の順序が整えられてⅠⅡが生まれ、しだいに「お茶を入れる」というⅡをはなれた行動のようになっていくこと。

(5) 文章中の[B]にあてはまることばとして、もつとも適切と思われるものを、次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア たとえば イ しかし ウ あるいは エ なぜなら

(6) ③おしなべて の意味としてもつとも適切と思われるものを、次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア つきつめて考えると。
イ みな等しく。
ウ はつきりと。明らかに。
エ 推測するならば。

(7) そんな運動の小さな波が、お茶を入れる時間にあらわれてくるのだ。とありますが、どういことですか。次の文の□にあてはまることばを「不安」「安らぎ」ということばを両方使って、三十字以内で書きなさい。(句読点を含む。)

毎日決まった順序でお茶を入れるという行動によって、人は□ということ。

(8) 次の文は、文章中のある段落のはたらきについて述べたものです。この説明があてはまる段落を文章中からさがして、段落番号で答えなさい。

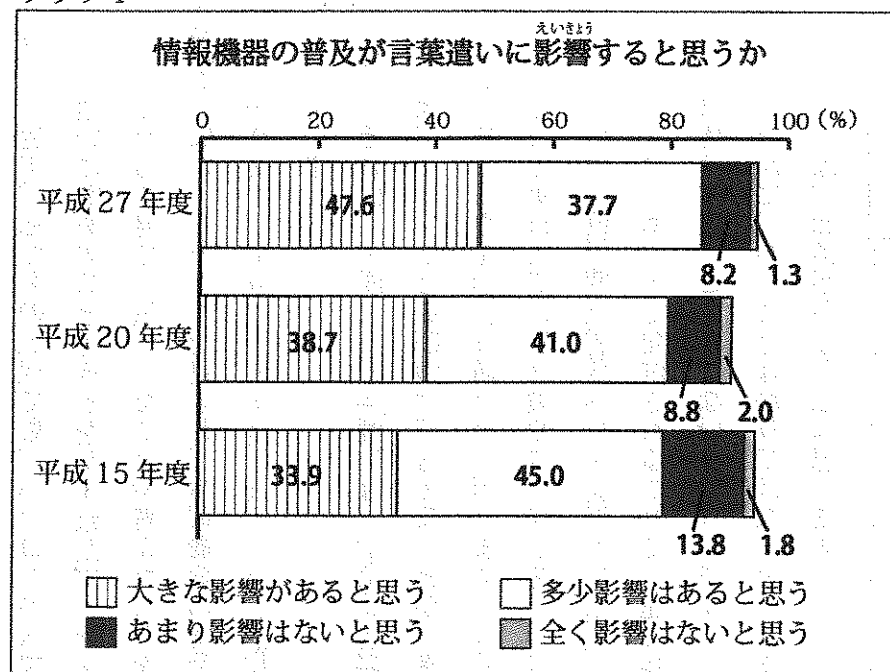
文章全体の話題からは少し離れて、筆者自身が今のような行動を取るようになった理由について述べている。

四

小学生のひろきさんのクラスでは、情報機器の普及と言葉遣いについて、話し合いをしました。次に示すものは、話し合いのときに使った資料と、話し合いの一部です。これを読んで、あとの問いに答えなさい。

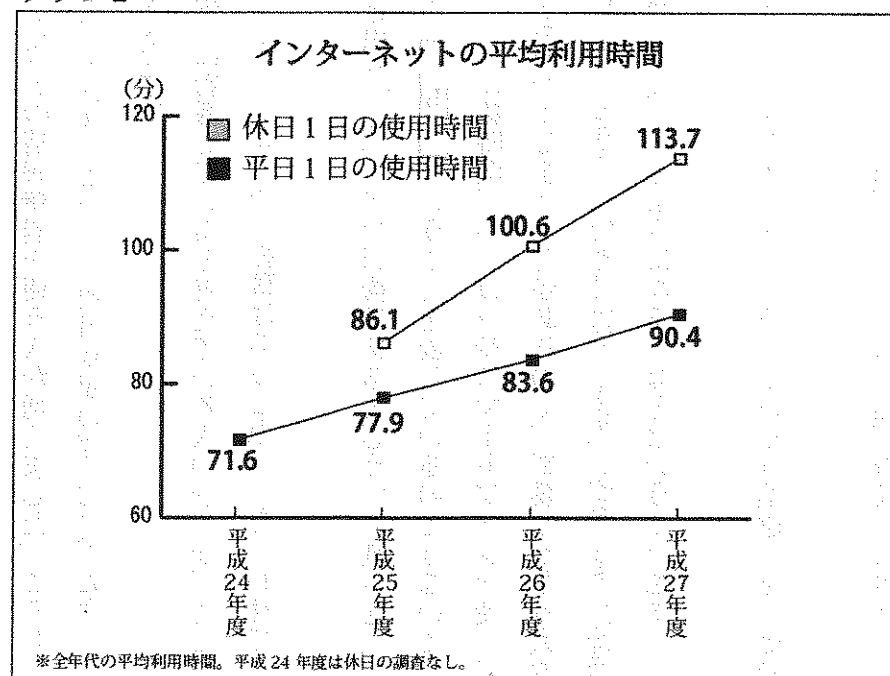
〔資料〕

グラフ 1



(文化庁「平成 27 年度 国語に関する世論調査」)

グラフ 2



(総務省「平成 28 年度 情報通信白書」)

〔話し合い〕

(ひろき) 近年、私たちの世代でも、パソコンやスマートフォンなどの情報機器を使う人が増えました。こうした情報機器の普及が言葉遣いに影響すると思うかをたずねたアンケート結果と、インターネットの利用時間の変化を示した、二つのグラフがあります。これらを見て、気付いたことや考えたことを発表してください。

(さやか) はい。グラフを見ると、情報機器の普及が言葉遣いに影響していると考えている人の割合が、だんだん増えていることがわかります。平成二十七年には、「大きな影響があると思う」と「多少影響はあると思う」を合わせて、A 割以上になっています。

(あかり) それに、平成二十七年には、「大きな影響があると思う」が、「多少影響はあると思う」の割合を上回っています。この変化は、グラフ2と結びつけて考えることができそうです。B ということを表しているのではないのでしょうか。

(たくや) あかりさんの言う通りだと思います。ぼく自身も、一日に数時間、パソコンやスマートフォンを使っていて、インターネットをよく使われている言葉や言い回しをつい日常生活でも使ってしまうことがあるので、影響はかなり大きいと思っています。

(さやか) 私は、情報機器が普及して、新しい言葉が広まるスピードが速まったように思います。あるせまい地域ではやっている言葉が、インターネットで発信されることで、遠く離れた地域でも使われるようになる、などということもあります。そういったこと自体は、悪いことではないと思うのですが。

(あかり) 確かに、悪いことばかりではないと思います。でも、インターネットではやっている言葉遣いを、そのまま日常生活に持ちこむのは、問題があると思います。

(ひろき) C という見方については、みんな同意しているようですね。では、情報機器が普及した現代で、言葉遣いについてのようなことに気をつけるべきか、みんなで考えていきましょう。

(……この後も話し合いは続いた。)

(1) 〔話し合い〕中のAにあてはまる漢数字を書きなさい。

(2) 〔話し合い〕中のBにあてはまることばを、四十字以上五十字以内で書きなさい。(句読点を含む。)

(3) 〔話し合い〕中のCにあてはまることばとして、もっとも適切と思われるものを、次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 情報機器は我々の生活に欠かせないものだ
イ 情報機器は言葉遣いに良い影響をあたえない
ウ 情報機器はようやく普及しつつある
エ 情報機器の普及が言葉遣いに影響をあたえている

(4) あなたは、現代において、言葉遣いについてどのようなことに気をつけるべきだと思いますか。次の条件に従って、百字以上二百二十字以内で書きなさい。

〔条件〕

- ① 原稿用紙の正しい使い方に従うこと。
- ② 作文は二段落構成とすること。
- ③ 一段落目には、言葉遣いについて気をつけるべきことを書くこと。
- ④ 二段落目には、なぜそう考えるのかの理由を書くこと。

解答を書き直すときの注意

解答を書き直すときは、例のようにつづくわえたり、けずったりしてもかまいません。ただし、字数については書き直した文字で数えます。

〔例〕

ま	の	り	い	な	た	や	け	を	見	た	。

二〇一八年度 水戸英宏中学校
第二回入試問題 国語 解答用紙(1)

受験番号	氏名

(6)	(1)
(7)	(2)
(8)	(3)
(9)	(4)
(10)	(5)

(7)	(6)	(5)	(3)	(2)	(1)
					a
					b
(8)	(4)				
					c
					d
					e
					じり
					40

(8)	(7)	(5)	(4)	(2)	(1)
			I		a
					b
		(6)		(3)	
			II		
					んだ
					c
					d
					e
					る

別紙 解答用紙(2)に書きなさい。

受験番号	氏名

[illegible]